

第4章 ゼロカーボン

★ ゼロカーボンとは？

CO₂などの温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすること。
また、排出量を削減するとともに、森林などによる吸収で埋め合わせすることが、ゼロカーボン、カーボンニュートラル、ネットゼロと呼ばれます。本白書では主に「ゼロカーボン」と記載しています。

第1節 ゼロカーボンに関する主な取り組み

1 苫小牧市ゼロカーボンシティ宣言

平成 27（2015）年、国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）において、気候変動対策に関する国際的な枠組みである「パリ協定」が採択されました。協定では「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする」という長期目標を掲げており、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）によると、地球温暖化を 1.5℃以内へ抑制するためには、令和 32（2050）年前後に CO₂排出量を実質ゼロにする必要があるとされています。

これを受け、各国が野心的な温室効果ガスの削減目標を掲げていくなか、令和元（2019）年 10 月、日本においても菅内閣総理大臣（当時）が「2050 年までに温室効果ガスの実質排出量ゼロを目指す」ことを宣言しました。そして、令和 3（2020）年 8 月、本市でも「2050 年までに CO₂の実質排出量ゼロを目指す」と表明しました。

2 苫小牧市第 4 次環境基本計画～第 1 期ゼロカーボン推進計画～

令和 5（2023）年 3 月、脱炭素社会への移行を計画的に進めるため、「ゼロカーボン推進計画」の内容を盛り込み、苫小牧市第 4 次環境基本計画を策定しました。計画期間は令和 5（2023）年度から令和 12（2030）年度までの 8 年間とし、CO₂排出削減目標を基準年度（平成 25（2013）年度）比で 48%削減、令和 32（2050）年までに CO₂実質排出量ゼロを目指します。

3 第 4 期苫小牧市役所エコオフィスプラン

（1）計画の目的

本計画は本市の事務・事業に関して CO₂排出量の削減および吸収作用の保全ならびに強化のための措置に関する計画であり、地球温暖化対策の推進に関する法律（平成 10 年法律第 117 号）第 21 条第 1 項に基づき、地方公共団体実行計画の【事務事業編】として策定しているものです。

令和 5（2023）年 4 月、第 4 次環境基本計画との整合性を図り、計画期間や計画目標を含め、前計画を全面改定し、新たな計画として策定しました。

（第 1 期エコオフィスプラン計画期間：平成 22（2010）年度～平成 26（2014）年度）

（第 2 期エコオフィスプラン計画期間：平成 27（2015）年度～令和 元（2019）年度）

（第 3 期エコオフィスプラン計画期間：令和 2（2020）年度～令和 4（2024）年度）

（第 4 期エコオフィスプラン計画期間：令和 5（2023）年度～令和 12（2030）年度）

(2) 計画の目標

CO₂排出源として、公共施設は「業務部門」、公用車は「運輸部門」、廃棄物処理は「廃棄物部門」に分類されます。各部門に「苫小牧市第4次環境基本計画」で定めた削減目標を適用し、基準年度（平成25（2013）年度）比で令和12（2030）年度までに「業務部門」51%、「運輸部門」35%、「廃棄物部門」25%の削減を目標とします。

■ CO₂排出量一覧（基準年度と目標年度）

（単位：t-CO₂）

区分		平成25年度 (2013年度)	目標年度 令和12年度(2030年度)		
		基準年度	目標削減率	目標値	目標削減量
	市長部局	34,916	-	-	-
	教育部局	11,264	-	-	-
業務部門		46,181	△51%	22,628	△23,552
運輸部門		594	△35%	386	△208
廃棄物部門		18,878	△25%	14,159	△4,720
CO ₂ 合計		65,652	(△43%)	(37,173)	(△28,479)

■ CO₂排出量一覧（現況年度と目標年度）

（単位：t-CO₂）

区分		令和5年度 (2023年度) 現況	現況削減率 (2013年度比)	目標年度 令和12年度(2030年度)	
				目標値	目標削減量
	市長部局	27,219	△21.9%	-	-
	教育部局	10,913	△3.5%	-	-
業務部門		38,131	△18.5%	22,628	△15,503
運輸部門		517	△13.0%	386	△131
廃棄物部門		14,520	△23.1%	14,159	△361
CO ₂ 合計		53,168	(△19.0%)	(37,173)	(△15,995)

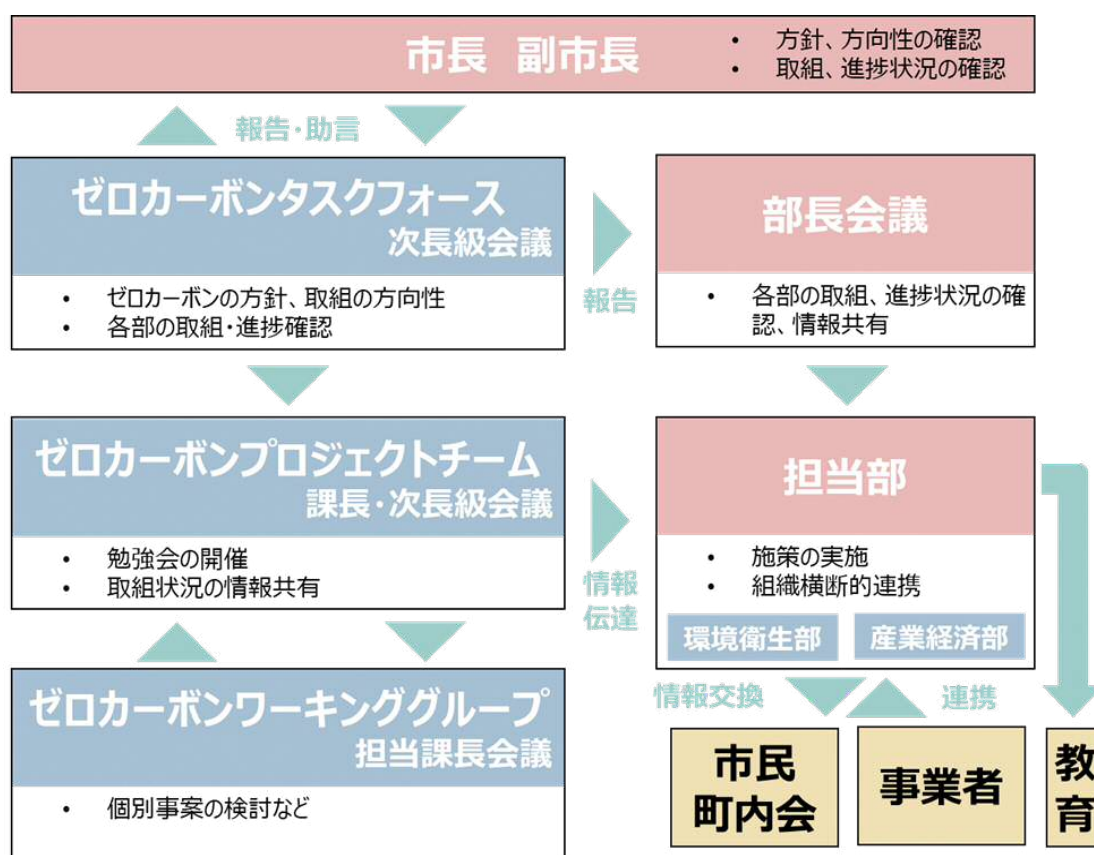
令和5（2023）年度の市役所におけるCO₂排出量は、53,168 tで、基準年度（平成25（2013）年度）と比べ約19.0%減少しました。内訳は、業務部門は約18.5%、運輸部門は約13.0%、廃棄物部門は約23.1%の減少となります。令和12（2030）年度の目標達成には全体で15,995 tの削減が必要です。

目標の達成に向けて、「公共施設へのPPAによる太陽光発電設備の導入」による再生可能エネルギーの導入、「公共施設の照明LED化」などによるエネルギー効率の高い設備の導入、「省エネ診断」などを活用した公共施設における設備運用の見直し、職員による「省エネ活動」の継続などにより、CO₂排出量の削減を図ります。

4 庁内連携

（１）ゼロカーボンシティの実現に向けたタスクフォース

市役所内部では、ゼロカーボンの取り組みを丸となって推進するための体制を構築しています。次長職によるタスクフォースでは、市役所内全体の方針の協議や、情報の共有や進捗管理、各部の連携、方針の策定などを行い、各部次長および関係課長で構成するプロジェクトチームで、全庁的な情報共有や勉強会を行っています。個別案件に関してはグループワークにおいて協議を実施するとしています。



■開催実績（令和5（2023）年度）

開催日	会議名	内容
5/24	プロジェクトチーム 推進会議	- 各部の取り組み状況 - 第4次環境基本計画 - 第4期苫小牧市役所エコオフィスプラン - カーボンニュートラルポート形成計画（苫小牧港管理組合） - 太陽光発電、LED導入状況 他
11/16	プロジェクトチーム 推進会議	- 中核人材育成事業勉強会 開催報告 - 再エネ水素サプライチェーン構築実証実験 - スマートシティとGXプログラム（未来創造戦略室） - 市有施設太陽光発電設備導入 他
3/25	タスクフォース兼 プロジェクトチーム 推進会議	- 各部の取り組み状況 - 中核人材育成事業勉強会 開催報告 - 令和5年度未来創造こども会議開催報告（青少年課） - マイクロ水力発電（水道課）

（2）中核人材育成事業「5stepで学べ！ゼロカーボン達人への道」

令和5（2023）年度、環境省から自治体職員向けの中核人材育成事業を受託した elDesign 株式会社に講師をしていただき、ゼロカーボンの取り組みの担い手となる人材を育成するための勉強会を開催しました。各部においてゼロカーボンを進めるうえで中核となつてほしいと推薦された係長職2人ずつ、計30人が参加しました。



■開催実績（令和5（2023）年度）

開催日	内容
7/11	- 本事業の目的、全体での実施事項を共有 - 本市のゼロカーボンに関する取り組みの共有
8/21	他自治体の取り組み事例を参考に、各部署で取り組むべき施策を検討
10/10	- 実施すべき施策の優先順位付け - 優先順位が高くなった施策案について意見出し
11/14	プレーヤーとアクションプランの整理（内部で取り組むべき内容の具体化）
1/16	3自治体合同で、取り組みや検討結果についての報告会

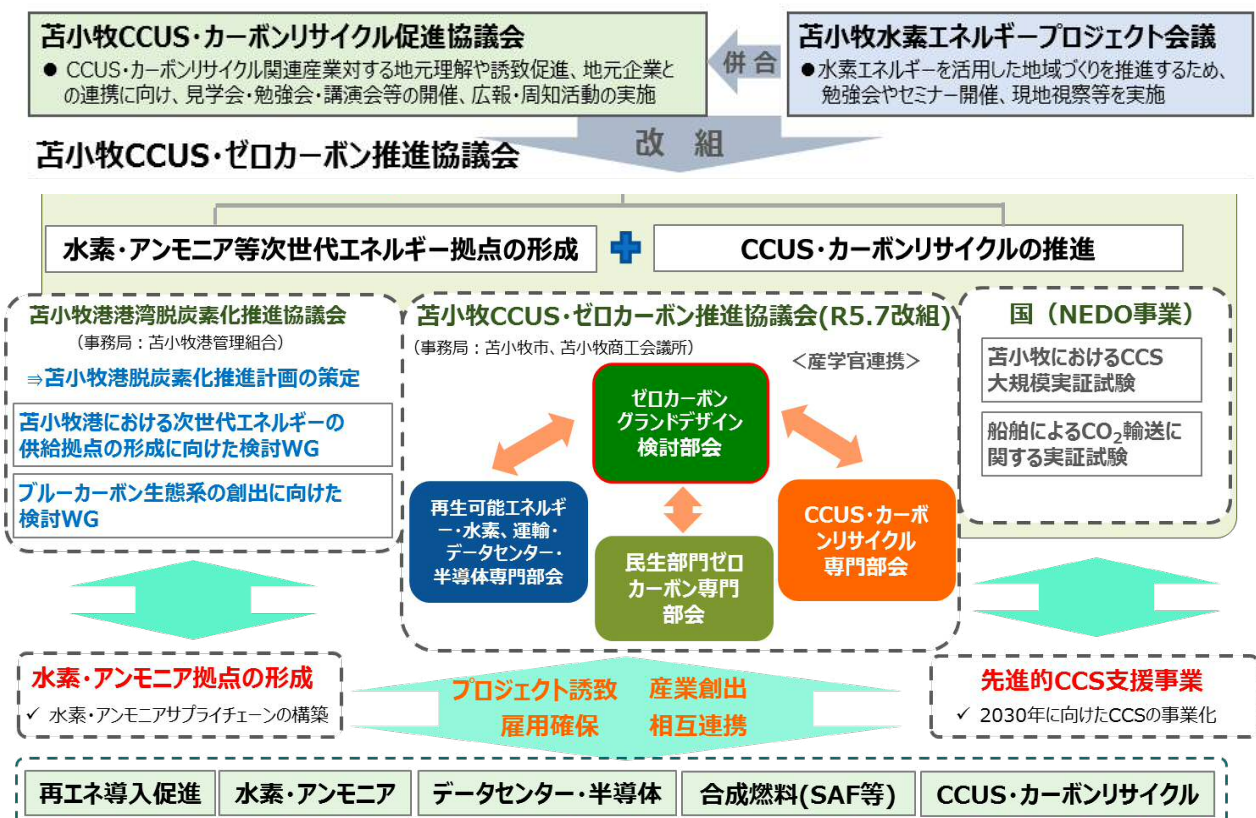
5 苫小牧市 CCUS・ゼロカーボン推進協議会

平成 22 (2010) 年 4 月、CO₂地中貯留技術 (CCS) 実証試験の苫小牧地域誘致を目指し「苫小牧 CCS 促進協議会」が発足しました。実証試験地が苫小牧地区に決定後も、現場視察会や広報とまこまいへの掲載を通じて CCS の必要性や安全性を広く周知する活動などを行ってきました。

令和元 (2019) 年 11 月、苫小牧 CCS 大規模実証試験における目標である、累計 30 万トンの CO₂圧入が達成され、現在は圧入を停止しモニタリングが行われています。一方、国ではカーボンリサイクル事業の実施に向けた検討が行われ、これらの新たな動きを踏まえ、令和 2 (2020) 年 9 月に「苫小牧 CCUS・カーボンリサイクル促進協議会」へ改組しました。

令和 3 (2021) 年 10 月、ゼロカーボンシティへの挑戦と、地域の脱炭素化と産業振興の両立を目指し、地域一体となって取り組みを進めるため「苫小牧 CCUS・カーボンリサイクル促進協議会」と「苫小牧水素エネルギープロジェクト会議」を併合し、「苫小牧 CCUS・ゼロカーボン推進協議会」へ改組しました。また、各取り組みを集中的に協議する 3 つの専門部会を設け、具体的な案件について意見交換を行っております。

令和 5 (2023) 年 7 月、総会において「ゼロカーボングランドデザイン検討部会」が発足しました。本検討部会は、地元企業が地域全体の取組方針、活動目標を「グランドデザイン」として共有し、ゼロカーボン産業都市を実現することを目的とし、ゼロカーボン実現の方策について、既存施設、資源の有効活用を図りながら、科学的、論理的、定量的に検討し、経済合理性を有する中・長期的かつ包括的なグランドデザインの策定を目指します。



■活動実績（令和5（2023）年度）

開催日	会議名	内容
7/3	第1回総会苫小牧CCUS・ゼロカーボン推進協議会	・令和4年度の事業、決算についての報告 ・令和5年度の事業計画、予算について ・ゼロカーボングランドデザイン検討部会の新設について ・各部会の開催状況についての報告
8/31	再生可能エネルギー・水素・運輸・データセンター・半導体専門部会	水素勉強会「苫小牧における水素利活用について」 ①水素に関する今後の政策の方向性について ②水素製造設備の概要と運用について ③北海道苫小牧でのCO₂フリー水素サプライチェーン構築について ④既存インフラを活用した水素供給 低コスト化に向けたモデル構築・実証事業について
10月	第2回理事会（書面）	・令和5年度予算変更について
2/28～3/1	スマートエネルギーWEEKへの出展	・苫小牧市で行われているCCS大規模実証試験やカーボンリサイクルの取り組みのPR
3/16	CCS講演会「地球温暖化とCCS」	・クマに学ぶ その不思議な生態と生理 ・日本のCCS政策と苫小牧
3月	機関紙の発行HPでの公開	・協議会の活動内容、苫小牧地域の脱炭素の動きなどのPR
通年	パネル展や講演などの周知活動	・パネル展 苫小牧西港フェリーターミナル、北海道庁、トヨタカローラ苫小牧ショールーム ・展示会 環境広場さっぽろ、ビジネスEXPO 札幌 苫小牧市ゼロゴミキックイベント ・講演 苫小牧工業高等専門学校、室蘭工業大学、北海道大学 など
通年	モニターによる情報公開	・市庁舎に設置したモニターで、モニタリングデータを公開し、CCS事業のPR
通年	ゼロカーボングランドデザイン検討部会	・ゼロカーボングランドデザインの策定について ○7/18 第1回検討部会 ○12/18 第1回検討WG ○1/10 第2回検討部会 ○3/12 第2回検討WG ○3/25 第3回検討部会

6 重点対策加速化事業

令和4（2022）年度に、「TOMAKOMAI 住宅＆公共施設まるごとゼロカーボンプラン」が環境省の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）」に採択されました。一般家庭・市内事業者向けの再エネ設備などの導入補助事業のほか、市有施設の再エネ・省エネ設備の設置・更新を行っています。

（1）公共施設への PPA による太陽光発電設備の導入

PPA（Power Purchase Agreement：電力販売契約）方式により、市有施設に太陽光発電設備を導入する事業を展開しています。発電事業者が市有施設に無償で設備を導入し、発電した電気を20年間、市が購入し使用することで、施設のCO₂排出量を削減します。

令和5（2023）年度では10施設にPPAによる太陽光発電設備の導入を進め、内7施設は設置工事が完了、令和6（2024）年4月から発電を開始しています。残りの3施設については引き続き設置工事を行い、令和6（2024）年度中に発電を開始する予定です。

■導入施設（令和5（2023）年度）

施設名	設置容量 (kW)	年間 CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)	発電開始時期
アブロス沼ノ端スポーツセンター	189.2	68.4	令和6年4月
ウトナイ交流センター（道の駅ウトナイ湖）	55.6	21.8	令和6年4月
第1学校給食共同調理場	209.2	76.6	令和6年4月
第2学校給食共同調理場	149.4	53.3	令和6年4月
苫小牧東小・中学校	145.2	65.1	令和6年4月
啓北中学校	48.4	21.5	令和6年4月
青翔中学校	74.8	31.1	令和6年4月
消防本部防災訓練センター	110.9	46.1	令和6年度中（予定）
市役所本庁舎	271.4	109.0	令和6年度中（予定）
高丘霊葬場	104.4	48.0	令和6年度中（予定）

※CO₂削減量は初年度のシミュレーション値



▲啓北中学校の屋上に設置した太陽光パネル



▲発電量などを表示する啓発モニター

(2) 公共施設の照明 LED 化

費用対効果が高い箇所から優先的に更新するため、市有施設における照明設備の使用状況などを調査し、照明 LED 化計画を作成しました。本計画では、機器更新後に 15 年以上大規模な改修などを予定していない市有施設を対象とし、そのうち一般施設は年間 1,600 時間以上、学校施設は年 1,400 時間以上使用する照明設備に限り、機器更新する方針としました。

令和 5（2023）年度では、5 施設の照明 LED 化を実施しました。

■ 更新施設（令和 5（2023）年度）

施設名	更新台数	年間 CO ₂ 削減量 (t-CO ₂)	年間省エネ効果 (円/年)
テクノセンター	59 台	3.95	260,426
消防署錦岡出張所	73 台	6.93	458,382
消防署新富出張所	53 台	6.45	425,236
消防署末広出張所	70 台	11.54	760,159
消防署沼ノ端出張所	59 台	8.50	560,525

(3) 苫小牧市ゼロカーボン推進事業（再エネ設備導入補助）

市内企業のゼロカーボンに係る取り組み支援および再生可能エネルギーの普及促進を行うため、CO₂排出量削減に資する設備を導入する事業者に対して補助を行っています。補助メニューのうち、重点対策加速化事業を利用しているのは、再生可能エネルギーの導入に係る太陽光発電設備と蓄電池の導入補助です。令和 5（2023）年度は 2 事業所から申請があり、太陽光発電設備と蓄電池をそれぞれ導入し、年間 26t-CO₂ の削減を見込むことができる設備を導入しました。

7 ゼロカーボンハウス促進補助金

令和 5 年度からは環境省の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）」を活用し、重点的に太陽光発電設備、定置用リチウムイオン蓄電池（FIT 売電不可）、ZEH、ZEH+ の補助を行いました。また、エコキュート、HEMS、V2H、給電装置、定置用リチウムイオン蓄電池（FIT 売電可）については、引き続き市費により補助を行いました。

■ ZEH 再エネ加速化補助（国費）

補助対象機器	交付率	上限額
太陽光発電設備	7 万円/kW（太陽光モジュール kWかパワーコンディショナーの出力値の低い方）	70 万円
定置用リチウムイオン蓄電池	設置費用の 1/3（kWh あたり 15.5 万円未満）	なし
ZEH	高断熱外皮、給湯・換気・空調設備にかかる経費分	55 万円
ZEH+	高断熱外皮、給湯・換気・空調設備にかかる経費分	100 万円

■ 省エネ機器促進補助（市費）

補助対象機器	交付率	上限額
エコキュート	設置費用の 1/10	8 万円
HEMS	設置費用の 1/10	4 万円
V2H	設置費用の 1/10	6 万円
給電装置	設置費用の 1/10	3 万円
定置用リチウムイオン蓄電池	設置費用の 1/10	12 万円

■ 補助実績

（単位：件）

機種 年度	太陽光 発電	蓄電池	ZEH	ZEH+	エコ キュート	エコ ジョーズ	エコ フィール	HEMS	コレモ	V2H	給電 装置	計
H21 (2009)	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
H22 (2010)	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
H23 (2011)	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
H24 (2012)	101	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	101
H25 (2013)	148	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	148
H26 (2014)	110	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	110
H27 (2015)	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51
H28 (2016)	31	-	-	-	64	179	51	-	-	-	-	325
H29 (2017)	34	-	-	-	69	163	83	-	-	-	-	349
H30 (2018)	35	-	-	-	74	182	70	-	-	-	-	361
R1 (2019)	19	5	-	-	29	50	50	6	-	-	-	159
R2 (2020)	14	8	-	-	37	43	64	7	2	0	-	175
R3 (2021)	16	21	-	-	31	22	32	5	6	0	-	133
R4 (2022)	40	26	-	-	98	-	-	7	-	0	9	180
R5 (2023)	44*	59*	1*	6*	128	-	-	13	-	0	3	254
計	678	119	1	6	530	639	350	38	8	0	12	2,381

※ 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）を活用

8 とまこまい住まいのゼロカーボン化推進事業補助金

北海道の「住まいのゼロカーボン化推進事業」を活用し、特に需要が多い住宅用エコキュートおよび定置用リチウムイオン蓄電池の設置費用に対する補助をすることにより、対象機器の普及促進および本市におけるゼロカーボンシティの実現に向けた環境負荷の少ないまちづくりに寄与することを目的とした補助事業を行いました。

※「住まいのゼロカーボン化推進事業」

北海道による道内市町村の脱炭素化に寄与する取り組みで、住宅への性能向上リフォーム、蓄電池の導入補助などを促進する自治体向けの補助制度。

■ 補助実績

(単位：件)

補助対象機器	交付率	上限額	補助件数
エコキュート	設置費用の 1/10※うち道費 1/2	8 万円	64 件
定置用リチウムイオン蓄電池	設置費用の 1/10※うち道費 1/2	12 万円	4 件

9 脱炭素先行地域

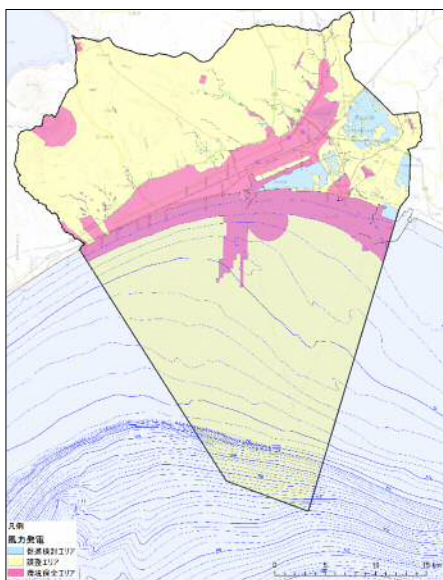
本市は令和 5（2023）年度に環境省の「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（脱炭素先行地域）」に選定されました。「脱炭素先行地域」は、地域特性などに応じた先行的な脱炭素の取り組みを実行することにより、令和 12（2030）年までに民生部門（家庭部門および業務その他部門）の電力消費に伴う CO₂排出実質ゼロの実現を目指す地域です。ダブルポートシティ苫小牧の次世代エネルギー供給拠点形成へ挑戦し、道内随一の工業都市の特徴を最大限活用するため、複数の施設に大規模な PV を設置し、産業部門の CO₂排出量を大幅に削減すると同時に、そこで得られる再エネ余剰電力と地域振興費を活用して、民生部門の脱炭素化と地域課題解決を図り、産業の取り組みが民生に資するモデルを構築していきます。



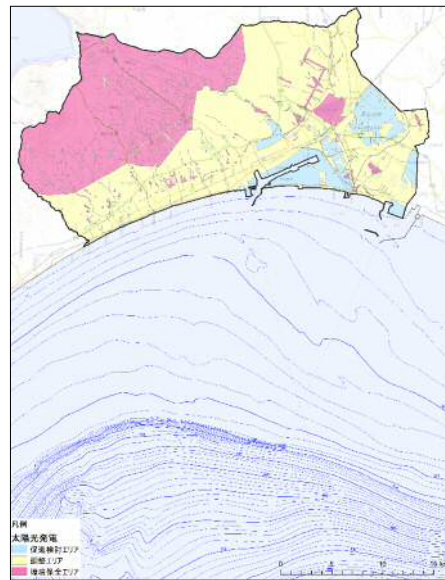
10 苫小牧市再生可能エネルギー適正導入支援マップ

令和6（2024）年3月に、本市におけるゼロカーボンシティの実現に向けて、再生可能エネルギーの最大限の導入促進と自然環境や生活環境の保全とも両立し、調和のとれた再エネ施設の導入を支援することを目的とした「苫小牧市再生可能エネルギー適正導入支援マップ」を策定しました。

法令や環境・社会面から、再生可能エネルギー施設の導入に際して保全や調整が必要となるさまざまな関連情報を地図上で重ね、導入を促進しうる「促進検討エリア」、導入は可能であるが調整事項のある「調整エリア」、防災・環境保全を最優先とする「環境保全エリア」を示しました。



▲風力発電



▲太陽光発電

【 促進検討エリア 】

（導入を促進しうるエリア）

- ・ 環境・社会面からの制約が少ないエリア

【 調整エリア 】

（環境、地域社会との調和を図ることで導入が可能なエリア）

- ・ 農地や保安林などの法的に許可あるいは届出等が必要とされているエリア（環境保全エリアを除く）
- ・ 自然環境や生活環境の保全を重視しているエリア
- ・ 先行利用者、管理者等の関係者との協議、合意形成を要するエリア

【 環境保全エリア 】

（防災・環境保全を最優先とするエリア）

- ・ 法令等により立地困難、重大な環境影響が懸念されるなど、防災、環境保全を最優先とするエリア

1.1 公用車のEV化

令和5（2023）年度、公用車にEV（電気自動車）を計3台（市役所本庁舎に2台、沼ノ端クリーンセンターに1台）を導入し、寒冷地における運用状況の検証を行っています。また、ラッピング車として市内を走行することで環境啓発にもつなげています。

市役所本庁舎の2台は東駐車場に設置したソーラーカーポートで充電、沼ノ端クリーンセンターの1台は廃棄物発電で充電を行っています。



1.2 寄附金

企業版ふるさと納税と指定寄附金もいただいております。令和5年度にて企業版ふるさと納税は3件、指定寄附金は3件の寄附をいただいております。

■「苫小牧ゼロカーボンシティプロジェクト」への寄附者（令和5（2023）年度）

寄附受領日	寄附者	寄附額	寄附種別
6/30	株式会社ウイルプラスホールディングス	1,000,000 円	企業版ふるさと納税
7/28	室蘭地方中古自動車販売事業協同組合	240,000 円	指定寄附金
10/2	株式会社北陸銀行・株式会社金剛園	300,000 円	指定寄附金
1/23	株式会社ビートレーディング	100,000 円	企業版ふるさと納税
2/26	非公表	500,000 円	企業版ふるさと納税
3/21	株式会社とませい、THE FLEA MARKETS	200,000 円	指定寄附金

13 TEAM「ゼロカーボンいぶり@とまこまい」

TEAM「ゼロカーボンいぶり@とまこまい」では、市とともにゼロカーボンに取り組む企業・団体を募集し、“チームの一員”として官民が一体となって連携しながら、取り組みの裾野を広げています。

■TEAM「ゼロカーボンいぶり@とまこまい」登録事業者（登録順）

1	岩倉建設株式会社
2	王子ネピア株式会社
3	新酸素化学株式会社
4	曾澤高圧コンクリート株式会社
5	出光興産株式会社 北海道製油所
6	アイシン北海道株式会社
7	苫小牧港開発株式会社
8	トヨタ自動車北海道株式会社
9	苫東アスコン
10	北海産業株式会社
11	株式会社レンテック
12	株式会社上田商会
13	スマートパワー株式会社北海道営業所
14	太陽日酸北海道株式会社
15	石油資源開発株式会社
16	株式会社シーヴィテック北海道
17	とまこまいコミュニティ放送株式会社

登録事業者の取り組みはこちら👉



1 4 環境学習・啓発、その他事業

現在の環境問題は多種多様であり、地球温暖化など私たちの生活と密接に結びついた問題の解決には、市民一人ひとりの取り組みが大切です。

本市では環境学習・啓発事業などを実施し、市民の環境意識の向上に努めています。

(1) 環境教育副読本

地球温暖化や廃棄物などさまざまな環境問題への意識啓発として、小学4年生と中学1年生に環境教育副読本「ゼロカーボンとゼロごみのまち とまこまい」を配布しており、授業やさまざまな活動の場面で活用されています。



(2) みんなで取り組むゼロカーボン!

家庭や学校、職場で簡単にできるゼロカーボンの取り組みを周知するため、広報とまこまいや各種 SNS へ、CO₂削減テクニックを紹介する「みんなで取り組むゼロカーボン!」を掲載しています。



（３）環境月間啓発事業

昭和 47（1972）年に開催された国連人間環境会議において、人類とその子孫のための人間環境の保全と改善を世界共通の努力目標として、実現の意思を表明するため「人間環境宣言」が採択されました。これを記念して、開催日である 6 月 5 日を「世界環境デー」と定め、世界各国でさまざまな行事が行われています。また、日本では 6 月を「環境月間」と定め、将来により良い環境を継承するため、国、地方公共団体、民間団体などによってさまざまなイベントが行われています。

本市では「環境月間」に合わせて、パネル展示や庁内放送などを行うとともに、5 つの項目に取り組む「エコドライブのすすめ」を市職員全員で実践し、令和 5（2023）年度は、通常運転と比較して、全体で 11,547L の燃料と 26,559kg の CO₂を削減することができました。

（４）エコドライブ宣言

地球温暖化防止対策に有効な運転方法である「エコドライブ」を宣言し、以下の取り組みを実践する方を募集しています。令和 5（2023）年度は 49 人がエコドライブ宣言し、令和 6（2024）年 3 月末現在 5,893 人の市民および市内の事業所へ通勤されている方が取り組みを実践しています。

■取り組み項目

- 1 ふんわりアクセル「e スタート」
- 2 加減速の少ない運転
- 3 早めのアクセルオフ
- 4 アイドリングストップ
- 5 エアコンの使用を控える
- 6 タイヤの空気圧をこまめにチェック
- 7 不要な荷物は積まずに走行
- 8 その他、独自に取り組んでいる事項

【ふんわりアクセル「e スタート」とは】

燃費を向上させる「やさしい発進」のことで、平成 17（2005）年末に、エコドライブ関連 4 省庁にて構成される「エコドライブ普及連絡会」で決定されました。

発進から最初の 5 秒間で時速 20km に達するくらいの加速が目安とされており、燃費消費は 10% 程度少なくなります。



エコドライブステッカー



とまチョップエコドライブステッカー

(5) グリーン購入の推進

物品などを購入する際に、品質や価格だけでなく環境への影響を考え、環境負荷ができるだけ少ない物品などを優先的に購入することをグリーン購入といいます。

平成 13（2001）年 4 月に施行された、「国などによる環境物品などの調達の推進などに関する法律（グリーン購入法）」に基づき、本市においても平成 15（2003）年 1 月にグリーン購入推進方針を策定し、取り組みを開始しました。

なお、取組品目数は過去数年間で購入実績がない物品や極端に少ない物品の除外、また、類似品目の統合などにより変動します。

■グリーン購入実績

年度 区分		R 1 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)
取組品目数		24	24	24	24	24
取 組 分 野	紙 類	91.1%	91.1%	75.9%	85.0%	97.4%
	文 具 類	99.8%	99.7%	99.7%	99.1%	98.5%
	電 池	99.8%	100%	100%	100%	99.8%
グリーン購入率(%)		88.5%	91.5%	91.3%	88.6%	98.0%

※ R3（2021）年度から紙類の集計単位を「1 枚」から「1 冊」へ変更

(6) 公共工事環境配慮

グリーン購入の中で特に環境に与える影響が大きい公共工事の分野に関しては、グリーン購入推進方針とは別に、平成 15（2003）年 3 月に公共工事環境配慮指針を策定し、取り組みを行っています。

■公共工事環境配慮実績

年度 区分		R 1 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)
取組項目数		29	29	29	29	29
取組実績数		18	19	18	17	17
対象工事数		178	165	148	147	145
環境配慮率(%)		93.7%	91.8%	87.0%	90.2%	96.2%

15 ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！

(1) 背景

本市では、平成 19（2007）年から 5 回にわたり、ごみの減量やリサイクルの推進を図ることを目的に、「053大作戦」を実施しました。また、令和 3（2021）年には「ゼロカーボンシティへの挑戦」を宣言し、令和 32（2050）年までに CO₂の実質排出量をゼロにする取り組みを進めています。

これらの背景から、「第 4 次環境基本計画～第 1 期ゼロカーボン推進計画～」がスタートした令和 5（2023）年度から 2 か年にわたり「CO₂CO₂（コツコツ） いこう ♪ 次世代のために」をスローガンに「ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！」を展開中です。

(2) 目的・事業概要

「ゼロカーボンシティ」の実現には、市・事業者・市民の 3 者による協働が必要不可欠であり、省エネ・創エネをはじめ、ごみの減量やリサイクルの推進、自然環境の保全など、さまざまな観点によるアプローチが求められます。良好な地球環境を保全し、次世代の子どもたちに引き継ぐため、2 か年にわたりまちぐるみで気候変動への対策に取り組みます。

大作戦！の主な取組み

1 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

参加無料 **ゼロカーボン講演会の開催**
ゼロカーボンについて子どもから大人まで楽しく学べる講演会を企画・開催します。

CHECK! **ゼロカーボンハウス促進補助金**
家庭部門の CO₂排出量削減に向け、ZEHや太陽光発電パネル、蓄電池、エコキュートなどの購入・設置に補助金を交付します。

3 目指そう！資源が循環する 053のまち

参加無料 **大作戦！周知イベント**
省エネ、創エネやごみの減量・リサイクルの推進、生物多様性など、大作戦！への意識の醸成を図ります。

CHECK! キックオフイベント
令和5年4月30日 苫小牧市総合体育館

CHECK! ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！祭り
令和5年8月27日 JFEリサイクルプラザ苫小牧

2 実現しよう！ゼロカーボン産業都市

CHECK! **ゼロカーボン推進事業補助金**
産業・業務部門の CO₂排出量削減に向け、市内立地企業を対象に、太陽光発電パネルや蓄電池などの設備投資の費用を補助します。

CHECK! **ゼロカーボン支援コンサルティング事業**
市内企業のゼロカーボンへの取組を促すため、省エネ診断や温室効果ガス排出量評価など、コンサルティング支援を実施します。

4 守ろう！豊かな自然とみんなの未来

CHECK! **アライグマ・エゾシカ等生活環境被害対策事業**

生活環境の維持及びエゾシカの市街地出没、交通事故の低減を目的に実施します。

CHECK! **苫小牧市生物多様性地域戦略策定・合意形成事業**

地域特有の生物多様性を持続的に利用可能な形で将来に引き継ぐことを目的に市独自の生物多様性に係る地域戦略を策定します。

(3) 主な市民参加型事業について（令和5年度）

○ ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！キックオフイベント

実施日：4月30日、来場者数：1,500人、会場：総合体育館

脱炭素や環境問題に取り組む全59者に、さまざまな体験コーナーやワークショップなどを出展していただき、「環境 EXPO ブース」「エンジョイブース」「ハンドメイドブース」「市役所ブース」の全4ブースを設けました。また、会場の外ではEV（電気自動車）やFCV（水素自動車）などのエコカーの展示を行い、会場内の電力の一部やキッチンカーで使用する電力を全てエコカーから供給・給電しました。また、総合MCに本市出身のものまねタレント「あいきけんた」さんをお招きしたほか、とまこまい観光大使「^{かどた}門田しほり」さんによるコンサートを行いました。とまチョップをはじめとする多くのご当地キャラや053ファイブも^{ゼロごみ}登場しました。



○ ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！祭り

実施日：8月27日、来場者数：1,000人、会場：JFE リサイクルプラザ苫小牧

流木や割り箸を使った工作・アート体験や自転車による発電体験、リサイクル自転車のオークションなどを実施しました。また、2510（にことも）運動推奨店によるキッチンカーや、複数のごみ処理事業者の協力のもと、ごみ分別・収集ができる体験ブースを設置しました。



○ 環境スクール「マリカ先生と笑って学ぶゼロカーボン」

実施日：9月24日、参加者：130人、会場：市民会館小ホール

環境講師/マジシャンの「マリカ先生」をお招きし、ゼロカーボン講演会と科学マジックショーを実施しました。地球温暖化対策をからめたクイズをはじめ、マリカ先生ならではの、紙パックをティッシュに変身させる「エコマジック」などを通して、子どもから大人まで楽しみながらゼロカーボンについて学びました。



○ 食材もエネルギーもムダにしない！使い切りクッキングショー

実施日：2月3日、参加者：126人、会場：グランドホテルニュー王子

「苫小牧友の会」会員で「全国友の会」において40年間、食の講師をつとめる^{あだちひろこ}「足立洋子」先生を講師にお招きし、市内で発生している食品の廃棄量などに関するミニ講座や、調理くずを極力減らす食材の切り方、手間をかけずにおいしく作る方法などを、トークを交えて実演するクッキングショーを開催しました。



○ EXILE SHOKICHI と学ぶ！私たちのゼロカーボン

実施日：2月1日、対象：苫小牧東小学校5年生

本市出身の「EXILE SHOKICHI」さんと東小学校5年生によるグループワークなどを通して、一人ひとりが取り組むことができるゼロカーボンについて学びました。また、当日は札幌テレビ「どさんこワイド」の取材があり、2月21日に特集として地上波で放送されたため、本市の取組PRのみならず、道内全体へのゼロカーボン啓発につながる事業となりました。



【動画の視聴はコチラから！】

○ 出前講座

実施日：通年、受講者：1,212人、回数：全30回

小中学校や町内会、団体、事業所などへ職員が講師として出向き、地球温暖化の原因・影響やゼロカーボンの考え方、家庭でできる省エネ、ごみの減量や分別など希望に応じて解説しました。



(4) 全実施事業について（令和5年度）

■ 広げよう！ゼロカーボンとみんなの暮らし

No	事業名	実施日	人数、作品数ほか
1	ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！キックオフイベント	4/30	1,500人
2	エコドライブ情報局（6月、12月）	6/13～15 12/9・13	71人、3回
3	ゼロカーボンかるた	7/1～7/31	115作品
4	ゼロカーボン×ゼロごみポスターコンテスト	7/1～8/25	54作品
5	地域で学ぼうSDGs！夏休み1日自由研究	8/3	19人
6	環境スクール「マリカ先生と笑って学ぶゼロカーボン」	9/24	130人
7	とまこまいキャンドルナイト	10/21	100人
8	未来創造こども会議	10～1月	15人
9	ゼロカーボン見学ツアー	11/28、12/1	36人
10	エコアイデアコンテスト	12/1～2/16	10人
11	親子で学ぶ！創・蓄・省エネルギー工作教室	12/16～17	54人
12	EXILE SHOKICHI と学ぶ！私たちのゼロカーボン	2/1	
13	食材もエネルギーもムダにしない！使い切りクッキングショー	2/3	126人
14	住まいのゼロカーボン化推進事業補助金	通年	68件 5,031千円
15	ゼロカーボンハウス促進補助金	通年	254件 55,003千円
16	出前講座	通年	1,212人、30回

■ 実現しよう！ゼロカーボン産業都市

No	事業名	実施日	人数、作品数ほか
1	CCUS・ゼロカーボン推進協議会（ゼロカーボン講演会）	7/3	100人
2	ゼロカーボン支援コンサルティング事業（セミナー）	7/26	18人
3	突撃！とまエコ企業！	3月公開	1件
4	ゼロカーボン支援コンサルティング事業（コンサル）	通年	24件
5	ゼロカーボン推進支援事業	通年	6件 10,657千円
6	TEAM「ゼロカーボンいぶり」@とまこまい	通年	126人

■ 目指そう！資源が循環する^{ゼロごみ}053のまち

No	事業名	実施日	人数、作品数ほか
1	みんなで広げよう GNT の輪～Let's 苫 DAN～（ゼロカーボン Ver.）	4/30	
2	^{ゼロごみ} レッドイーグルス×053ファイブ協働イベント	4/30、6/18	2 回
3	^{ごみゼロ} 530の日イベント	5/30	310 人
4	春・秋の大掃除	5 月、10 月	208 団体 21,620 人
5	ハートフルリサイクル（学校給食残渣のたい肥化）	7 月	2 校
6	食器リユースプロジェクト	7/30	1 回
7	不法投棄地域合同パトロール	8/19	24 人、72.8kg
8	ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！祭り	8/27	1,000 人
9	食品ロス削減運動イベント	9/19	1 回
10	ゼロゴミッション	10/22	52 人
11	フードドライブ（食品の寄付回収→フードバンクへ引渡し）	2/8～9	54 人
12	次世代市民用パンフレットの作成・配布	2/21	57 施設
13	ありがとう袋の配布拡大	通年	
14	海ごみ DAY	通年	1,212 人、30 回
15	SNS などによるリサイクル情報の発信	通年	27 回
16	資源回収の推進	通年	
17	食品ロスの削減	通年	
18	^{ゼロごみ} 053通信の全戸配布（ごみカレンダーへ掲載）	通年	
19	^{ゼロごみ} 053動画プロジェクト	通年	5 作品
20	^{ゼロごみ} 053ファイブによる周知（ゼロカーボン）	通年	
21	チャレンジ！ごみ減量（イベント配布）	通年	
22	手前どり POP の推進（小売り店連携）	通年	41 店舗
23	苫小牧式のごみステーションの検討	通年	
24	ぱくりっこの開催	通年	2,693 人
25	プラスチック代替製品の利用促進（イベント配布）	通年	
26	生ごみ3きり運動の推進（イベント配布）	通年	
27	生ごみ堆肥化容器・電動生ごみ処理機購入、助成の普及推進	通年	
28	リサイクルハウス設置助成	通年	2 件 393 千円

■ 守ろう！豊かな自然とみんなの未来

No	事業名	実施日	人数、作品数ほか
1	北大研究林との協働事業（自然体験ツアー）	7/8	19人
2	せせらぎスクール	8/1	71人
3	親子森林整備体験～秘密基地をつくろう！～	11/19	18人
4	エゾシカの有効活用（エゾシカ肉ペットフードの販売）	3/1～	
5	エゾシカ捕獲事業	通年	
6	こころの授業	通年	1,184人
7	自然環境保全地区の保全（樽前ガローの整備）	通年	
8	生物多様性地域戦略の制定（骨子案の作成）	通年	
9	バードウォッチング	通年	253人

（５） 総括

「CO₂CO₂（コツコツ）いこう♪次世代のために」をスローガンに、全59事業を実施（既存・関連事業含む）し、参加者数30,785人、コンテストなど応募作品数174点、補助金など交付件数363件となりました。令和6年度も幅広い市民へ環境問題について周知・啓発するべく、令和6年7月大作戦！祭り、令和7年3月ファイナルイベントを中心に、継続して各種事業を展開します。